

実施結果

神崎市 水源地域振興フォーラム

～地域が目指す将来像に向けて これからの地域づくりを考えよう～

神崎市では、激甚化する豪雨災害に備え、城原川流域の安全・安心を図るため、城原川ダム建設が進められています。

城原川ダム建設予定地周辺の城原川水源地域では、少子高齢化や過疎化が進行する昨今、どのように地域を活性化していくかが課題視されています。

“水源地域”には何ができるのか、地域を活性化するためにはどうしたらよいか、水源地域で地域活性化に取り組む方々のお話に触れ、これからの地域づくりについて一緒に考えてみませんか？

1. 目的、2. 開催概要

○目的

- ・城原川ダム建設に伴う地域振興計画については、水源地域の生産機能及び生活環境の現状と課題を踏まえ、持続性のある地域コミュニティの維持を目指した振興施策を地域と行政が協働でつくりあげる必要がある。
- ・そのため、本フォーラムでは、**市民の方への城原川ダム建設に伴う地域振興対策についての情報発信及び城原川水源地域における地域活性化への機運を高め**、今後における水源地域振興計画の策定に反映することを目的とする。

○開催概要

- ・日 時：令和2年12月20日（日）14:00～16:40
- ・場 所：神崎市中央公民館 講堂
- ・募集要領：チラシ全戸配布及び市HP
- ・タイトル：神崎市水源地域振興フォーラム
- ・申込方法：チラシ申込欄（FAX、メール等）
- ・主 催：神崎市水源地域振興対策検討委員会
- ・共 催：神崎市
- ・新型コロナウイルス感染症対策
 - ①事前対策：発熱者など風邪の症状のある方の来訪拒否、マスク着用
 - ②場内対策：来場者の検温、住所氏名記載による来場者の把握

2. 開催概要(チラシ)



神崎市 水源地域振興フォーラム

～地域が目指す将来像に向けて これからの地域づくりを考えよう～

神崎市では、激甚化する豪雨災害に備え、城原川流域の安全・安心を図るため、城原川ダム建設予定地周辺の城原川水源地域では、城原川ダム建設予定地周辺の城原川水源地域では、少子高齢化や過疎化が進行する昨今、どのように地域を活性化していくかが課題視されています。“水源地域”には何ができるのか、地域を活性化するためにはどうしたらよいのか、水源地域で地域活性化に取り組む方々のお話に触れ、これからの地域づくりについて一緒に考えてみませんか？



来場者の皆様へ
会場では新型コロナウイルス感染症対策を実施しています。皆様のご協力をお願い致します。
※詳細は裏面をご覧ください。

入場
無料

日時
令和2年
12月20日(日)
14:00開会(13:30開場)
※16:40開会予定

場所
神崎市中央公民館 講堂
〒842-8601
佐賀県神崎市神崎町鶴3388番地5

プログラム

- 基調講演
「水源地域における持続性のある地域活性化の実現」
- 事例報告会
近隣地域における地域振興先例地3団体による活動事例報告
- 意見交換会
水源地域振興に関する意見交換会
(パネルディスカッション)

主催：神崎市水源地域振興対策検討委員会／共催：神崎市

<申込方法>
本チラシの申込フォーム(裏面)に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにて、神崎市ダム対策課まで申込フォームをご送付ください。
申込期限 令和2年12月18日(金) 17:00まで
※メールにてお申し込みの場合は、申込フォームの必要事項をメール本文に入力の上、お申し込みいただくことも可能です。
※座席に空きがある場合に限る、当日受付も可能です。

<お問い合わせ先>
 **神崎市 産業建設部 ダム対策課**
 佐賀県神崎市神崎町鶴3542番地1
TEL 0952-37-0103(直)
FAX 0952-52-6549
メール dam-forum@city.kanzaki.lg.jp

基調講演



安藤 周治 (NPO法人ひろしまね 理事長)

小規模で超高齢化の進む集落や高齢者の暮らしの支援には、個別対応が可能な役場に代わる民間組織の「もう一つの役場」が有効であると、広島県と島根県地域で実証中。長年、過疎地域を元気にする取組やNPOなど市民協働による地域づくりを実践的に取り組むとともに、アドバイザーとして全国の水源地域を巡る。主に国土庁地方振興アドバイザー、国土庁水源地域対策アドバイザー、総務省過疎問題懇談会委員、コミュニティ政策学理事、国土交通省主催の里の旅コンテスト審査委員長などを歴任。主な著書に「全国まちづくり集覧」(有斐閣)、「まちが輝く」(第一法規出版)など。

事例報告会



小野 豊徳 (合同会社東峰村ツーリズム協会 会長)
福岡県東峰村を拠点に、観光情報サイト「東峰見聞録」による観光情報の発信と、村の魅力を直接伝える観光ガイド(案内人)事業に取り組んでいる。また、新たな村の特産品の製作や販売も行っている。



西 要子 (株式会社森の香 菖蒲ご膳)
佐賀市富士町の産物を活用し、地産地消型の「菖蒲ご膳」を提供している。富士町菖蒲地区の地域の魅力探しと創出に奔走し、嘉瀬川ダム(佐賀市)周辺の地域活性化に一役買っている。



重田 秀己 (一般社団法人神水川公園協議会 理事)
佐賀市の嘉瀬川ダム湖畔に、北部九州地区最大の本格的なパークゴルフ場「神水川パークゴルフ場」が平成25年7月にオープンした。雄大な自然に囲まれた「三世代スポーツ」の場となっている。

意見交換会

<パネリスト>

神崎市長
松本 茂幸

基調講演者
安藤 周治 (NPO法人ひろしまね 理事長)

事例報告者
小野 豊徳 (合同会社東峰村ツーリズム協会 会長)
西 要子 (株式会社森の香 菖蒲ご膳)
重田 秀己 (一般社団法人神水川公園協議会 理事)

<コーディネーター>

神崎市水源地域振興対策検討委員会 委員長
五十嵐 勉 (佐賀大学 教授)

会場案内

神崎市中央公民館
〒842-8601 神崎市神崎町鶴3388番地5
TEL 0952-53-2325(代)



新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの感染リスクを軽減するため、ご来場の皆様には、下記対策へのご理解・ご協力をお願い致します。

- 受付の際に、来場者の検温を実施します。また、事務局で来場者を把握するため、来場者の住所・氏名をご記入いただきます。
- 来場の際には、マスクの着用をお願いします。
- 会場内の消毒液で、適宜、消毒をお願いします。
- 座席は、間隔を空けて着席していただきます。
- 不用意な大声での会話や接触などはお控えください。



申込フォーム (FAXまたはメールにてご送付ください)

代表者氏名		参加希望人数	計	名
住所				
電話番号				

申込先 FAX: 0952-52-6549 / メール: dam-forum@city.kanzaki.lg.jp

2. 開催概要(プログラム)

開始時刻	所要時間	題目	内容	担当者
14:00	5分	開会	趣旨説明 会場内の注意事項 等	司会者 (吉富 友梨奈氏)
14:05	5分	挨拶	市長挨拶	神埼市長 松本 茂幸 氏
14:10	40分	基調講演	水源地域における持続性のある地域 活性化の実現について～「ここで暮ら し続けたい」の思いをつなぐ～	NPO 法人ひろしまね 理事長 安藤 周治 氏
14:50	10分	事例報告会	近隣地域における地域振興先例地 3 団体による活動事例報告	合同会社東峰村ツーリズム協会 会長 小野 豊徳 氏
15:00	10分			森の香 菖蒲ご膳 西 要子 氏
15:10	10分			一般社団法人神水川公園協議会 理事 重田 秀己 氏
15:20	15分	休憩	質問票回収	司会者 (吉富 友梨奈氏)
15:35	60分	意見交換会	水源地域振興に関する意見交換会 (パ ネルディスカッション)	<コーディネーター> 神埼市水源地域振興対策委員会 委員長 五十嵐 勉 氏 <パネリスト> 神埼市長、基調講演者、事例報告者
16:35	5分	挨拶	副市長挨拶	神埼市 副市長 田中 信博 氏
16:40	—	閉会	—	司会者 (吉富 友梨奈氏)

3. 開催結果(写真)

会場全景



来場者①



来場者②



あいさつ>松本市長



あいさつ>田中副市長



司会>吉富氏



3. 開催結果(写真)

基調講演>安藤氏



事例報告>小野氏



事例報告>西氏



事例報告>重田氏



パネルディスカッション①



パネルディスカッション②



3. 開催結果(写真)

会場



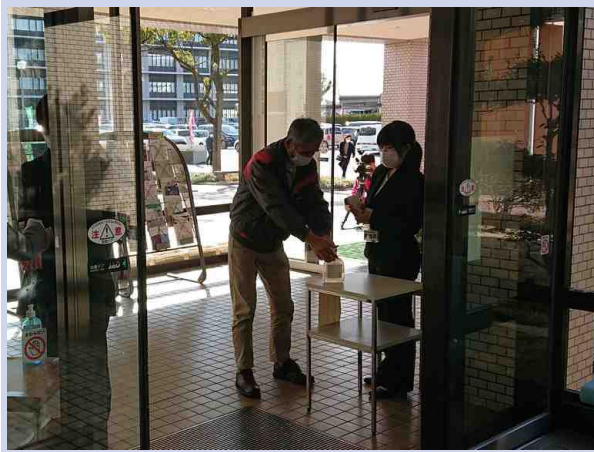
受付



控室



＜安全対策＞
アルコール消毒



＜安全対策＞
検温



＜安全対策＞
ソーシャルディスタンス



4. 発表内容

事例報告＞水源地における持続性のある地域活性化の実現 ～「ここで暮らし続けたい」の思いをつなぐ～

特定非営利活動法人 ひろしまね 理事長 安藤周治



- ・本日のタイトルは、**水源地で暮らし続けたいの思いをつないでいく意味である**。地域を良くしていく思いで、ずっと続けて使ってるタイトルでもある。
- ・ここに暮らし続けるためには、**地域の声を聞くことを大事にすることが重要**である。地域懇談会を実施する中で、**じいちゃん、ばあちゃんの声**を聞くというのを非常に大事にしながら行っている。ワークショップで意見が出るものの、誰が実施するのか、行政が実施するのかというところで足踏みしてしまうことから、**個人でできる取組もあるが、仕組みをどうつくるかが、これからの時代で非常に大事**になると思っている。
- ・地域づくりにおいて、初めて出かけるところで見える物差として、4つを考えている。1つ目は、**集会への女性の参加率**、2つ目は**社会教育の施策がどのように進められているか**、3つ目は**造り酒屋があるか**である。3つ揃う町は、**まちづくりを実施する中で非常に興味深く、面白い**と思っている。加えて、付録の4つ目としてお菓子を作っているお店（**経済的なゆとりがある**）である。
- ・これからの時代、大事にして目指す視点が3つである。1つ目は、**持続可能な地域づくりとして、子どもたちに地域の良さをどう伝えていくかがないと、持続可能性がないことになる**。2つ目は、**安心・安全な暮らしや生活環境を整えることであり、地域流水治水というダム建設と考えられる**。3つ目は、**暮らしを支える対話、仕事づくりが大事**である。そのためには**地域の経営組織を作ることが大事**であり、地域の運営として町内会や自治会があるが、これからは多分に**地域経営する視点が必要**である。
- ・最後に、日常の暮らしの中で、**私たちが手短かにできるまちづくりは、人を褒めることである。人をいい気持ちにさせながら地域が回ることは、非常に良いことだ**と思っている。お互いに褒め合い、認め合いながら地域づくりに関わることは、身近なまちづくりとして、**1番大事なこと**である。

4. 発表内容

事例報告＞東峰村の魅力を伝える！

～オーダーメイド観光の挑戦～ 道半ばの話を聞いてください。

合同会社東峰村ツーリズム協会 会長 小野豊徳

- ・観光事業と木工品の制作・販売の2本の柱の会社である。村には素晴らしい観光資源があるものの、観光案内のできる仕組みが無かったので、役場を早期退職して会社を立ち上げた。
- ・情報発信の1つとして、観光ガイドを実施している。現在は団体旅行ではなく、個人のオーダーメイドの観光が求められており、村の魅力を直接伝えたいため、その人に合わせた観光コースを提案している。村人と旅人の交流を深められる架け橋や、感動を与えられる案内を提供することが狙い。
- ・「東峰見聞録」という観光情報サイトを立ち上げている。行政の観光情報は公平公正が必要であり、観光協会や商工会で作成すると、会員の立場の違いなどで温度差があることを役場勤務の際に痛感した。村のサイトと異なり、独自に作成した観光に特化したサイトとして、観光として必要な情報のみを掲載し、サイト内の情報ですべて分かる内容としている。

事例報告＞森の香菖蒲ご膳の活動について ～人と自然に支えられて～

森の香 菖蒲ご膳 西 要子

- ・嘉瀬川ダム建設時に、嘉瀬川ダム建設に伴う富士町振興計画という振興計画が計画され、その事業の1つとして位置づけられた。
- ・その中の1つである、「菖蒲ご膳」は、平成7年から活動を開始した。当時、地域おこし・まちづくりが飛び交っていたが、名所旧跡や特産品の無い地域で考え出したのが、地域名の「菖蒲」であり、雑草に活躍してもらうことを踏まえ「山野草、摘み草料理愛好会菖蒲ご膳」を名付けた。
- ・当時は、セリやナズナを摘んで、自分たちで作って食べて、自己満足していた取組であったが、緊張感を持たすため、30名限定で公民館にて振舞ったことから始めて、現在まで25年ほど活動している。現在では、山野草会席、山里料理などを提供している。

4. 発表内容

事例報告＞神水川パークゴルフ場の活動について～神水川に集う～

一般社団法人神水川公園協議会 理事 重田 秀己

- ・嘉瀬川ダム建設により最上流地区の4地域で本事業を実施した。ダム建設により国が買収した土地の活用として、ラグビー場やサッカー場の建設が計画されていたが、**地元のパークゴルフ建設の要望を佐賀市が受け入れてくれ、神水川パークゴルフ場が整備された。**
- ・整備後の運営も、平成20年に最上流部の神水川の流域の4地区にて、**神水川公園協議会を立ち上げた。その後、指定管理者を受け入れるために、一般社団法人として立ち上げた。**
- ・神水川公園は、メインはパークゴルフ場であるが、6カ所で12haの面積を有している。**通常はスタッフ11名で公園の維持管理を行っているが、夏場の草刈りなどは各地区から応援部隊を出していただき、30名で1日で済ませるような協力を受けている。地域振興として、大会の商品として地域産のコメや野菜を提供する他、温泉施設の宿泊者や入浴者なども利用されている。**



5. パネルディスカッション(意見交換)

テーマ1: 基調講演・事例報告会の補足質問(松本市長・五十嵐委員長)

松本市長：まちづくりとして笑顔があふれる街を目指すのはなかなか難しい。それを目指すためのエネルギーの編み出し方、持続性についてご教授願いたい。

五十嵐委員長：誰が実施するのか、その仕組みづくりについて

○安藤氏

- ・昔のまちづくりは、ボランティアが大部分であった。事例報告の内容は、昔のまちづくりではなく、業を起こされた内容であった。継続的に実施するためには、自らがお金を稼ぐことがポイントである。
- ・お金を出資する、資本金を作ることは、参加者の覚悟を測る意味ですごく大事なことである。いつまでも行政からの補助金に頼る、応援のお金があることを頼らずに、頑張っていたきたい。

○小野氏

- ・新しい資源のビジネスとして、木工品を販売している。コロナ禍で観光収入が無い中で、スプーンやフォーク、女性用のアクセサリーを販売している。ヤマザクラのスプーンなど質の高いハンドメイド作品を作る必要があり、そのためには高い技術が必要であり、それは磨くしかない。
- ・活動拠点は東峰村であるが、特定の販路を持ち、首都圏で展示会に出展し、作品を見てもらっている。質の高いものを売るやり方で、ふるさと納税で取り上げられ非常に人気があり、収入となっている。

○西氏

- ・公民館での活動から株式会社化し常設のレストラン経営になって大きく変わったことは緊張感であり、商売の難しさを感じた。菖蒲ご膳に来る方は大体高齢の女性である。リタイアしたらここに行こうかという位置づけであり、女性が組織として担う施設となっている。

○重田氏

- ・4つの地区が連携して一般社団法人化をしたが、それ以前は地区のお祭りに参加する程度で、連携したのは初めてである。また、嘉瀬川ダムは上水の役割もあることから、芝の管理で薬剤の散布が出来ない。そのため、草刈りは地域の老人クラブや婦人の方にも協力いただき対応している。

5. パネルディスカッション(意見交換)

テーマ2: 都道府県や市町村境界を挟んでの連携(五十嵐委員長)

城原川ダムの水源地域活性化において、多い意見は福岡都市圏での連携、佐賀市三瀬村、吉野ヶ里町との地域連携である。行政の境界を超えた連携の在り方について

○安藤氏

- ・島根県知事がNPO法人を認証しており、事務局も島根県にある。江の川を挟んで向かい側にあり、そんなに県境を感じることはない。NPO法人の良いところは、どこで活動しても良い緩やかさである。そんな気楽な活動をやっていることから、行政の方が境界を越えた連携は大変だと思う。
- ・江の川は広島県から島根県に流れている。豪雨の際、上流部のダムの放流量のキャパシティをどれだけ増やせるか、下流域の関心が高いため、流域治水の概念で考えていく必要がある。
- ・流域間の情報交流について我々で考えるために、「江の川流域治水意見交換会」を実施した。国土交通省、広島県河川関係者、流域市町村、水害・防災の関係者や自主防災組織など多くの方が参加されており、共通ステージを作って呼びかけることは、行政よりも民間の方が自由度があるのでは。
- ・城原川ダムの振興プランを作る際にも、今まで考えても見なかったスタイルで考えてること、あるいは批判をしてもらいたいと考えている。

○小野氏

- ・観光の点で見ると、市町村で全部完結する動きもあるが、市町村の境界は旅人、旅行者にとっては全く関係ないものである。
- ・ガイドの中で人気の高い、小石原焼と小鹿田焼を回るコースがある。ガイド無しの観光では見ることができない付加価値をつけるためには、その地域の青年部の交流会に参加するなど、人間関係(信頼関係)を高めることが必要である。
- ・東峰村に温泉は無いが、無いものねだりをせず、あるものを磨くことが必要である。宿泊は隣接市の温泉を紹介し、ガイドの際に迎えに行き、移動中にガイドして料金を徴収している。地域連携として、自分の自治体に無いものを市町村や都道府県をまたいで実施することが必要である。

5. パネルディスカッション(意見交換)

テーマ3:会場からの質問票(五十嵐委員長)

地域づくりのためには、自発的に活動する人づくりが大切である。リーダーとなる人の作り方、リーダーについていく人を集める方法について

○安藤氏

- ・褒めることが大事である。また、飲み会での交流の場を持つことも必要である。一緒に懇談をすることで、人は育っていく。特に若い人に対しては、上りかけたはしごを取らず、しっかりおだてて上げて、もっと上のほうまで上らせるぐらい上手に褒めてほしいと思う。
- ・いろいろ成功体験をすれば、今の若い人や、後々の若い人も頑張って実施することから、ぜひ褒め上手の町になってもらいたい。

○西氏

- ・本当にもない、これもないと、故郷を否定していた人たちも菖蒲ご膳に来ていただき、本当にここは環境がいい、ご膳がおいしいと言ってくれる方たちを、迎えることである。その方に対し、自分たちで山菜を摘んで、ここに暮らすことを納得してもらうことが必要である。

○重田氏

- ・パークゴルフの運営者は、ほとんどリタイアされた方である。地区の方々は兼業農家が多く、勤め先の専門の仕事(機械・電気・経理等)をされた方が多くて本当に助かった。

まとめ(五十嵐委員長)

- ・主に地域活性化を担う人や組織が極めて大事である。神崎市水源地域振興対策検討委員会の中で、担い手や組織作りも含めてこれから計画作りに反映をしていきたいと思っている。

6. アンケート結果(1)

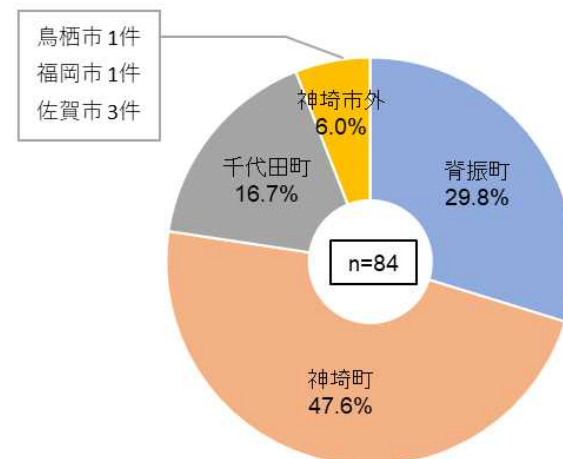
- 神崎市水源地域振興フォーラム参加者アンケート結果 -

有効回答数: 84名 有効回答率: 61.8%

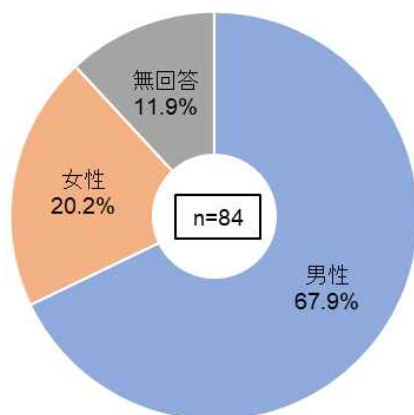
<設問>

- ・属性(居住地・性別・年齢・職業)
- ・フォーラムを知ったきっかけ、参加したきっかけ
- ・内容(5段階)、良かったプログラム、理解が深まったこと
- ・新型コロナウイルス感染症対策(5段階)、自由意見

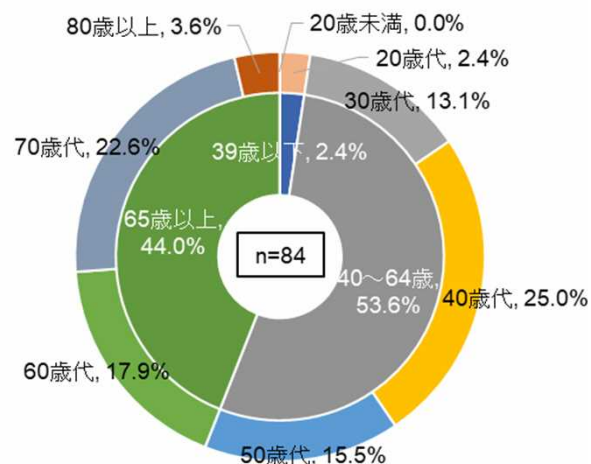
<居住地>



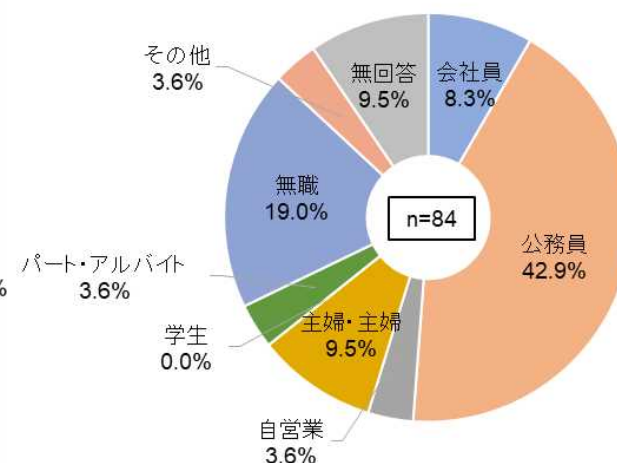
<性別>



<年齢>

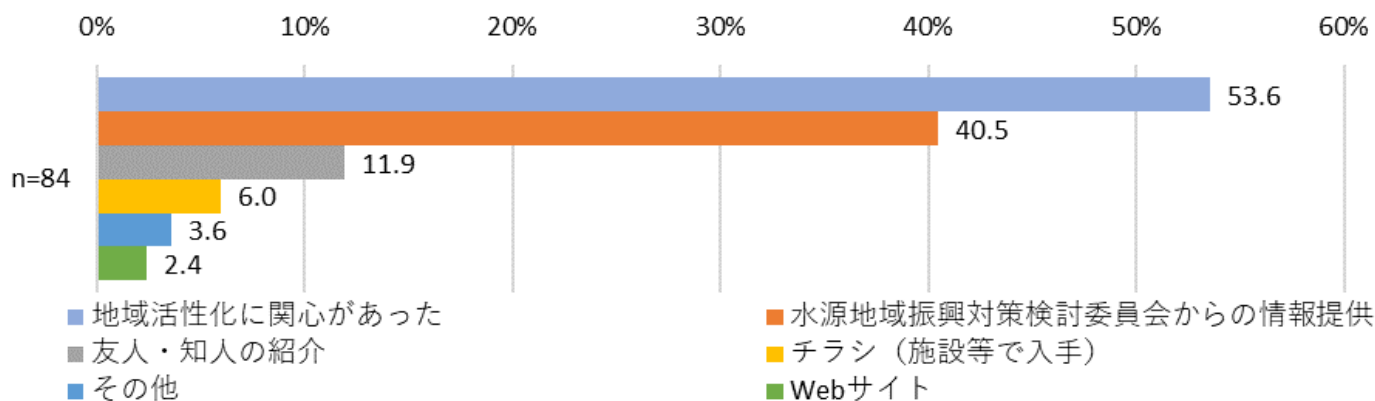


<職業>

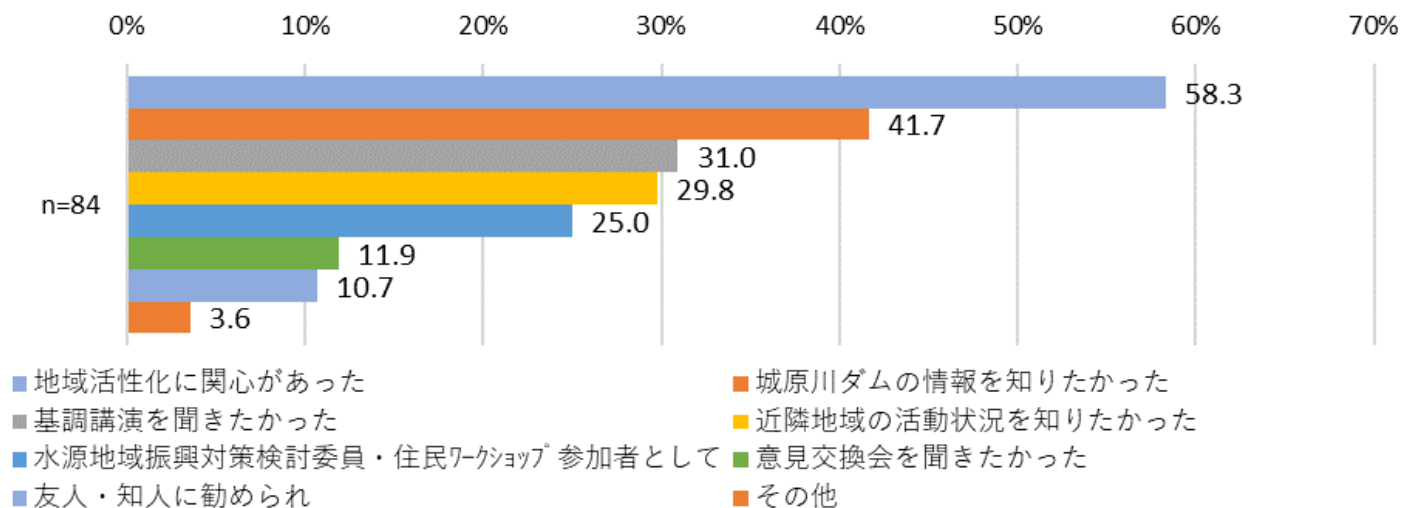


6. アンケート結果(2)

〈問2.知ったきっかけ〉

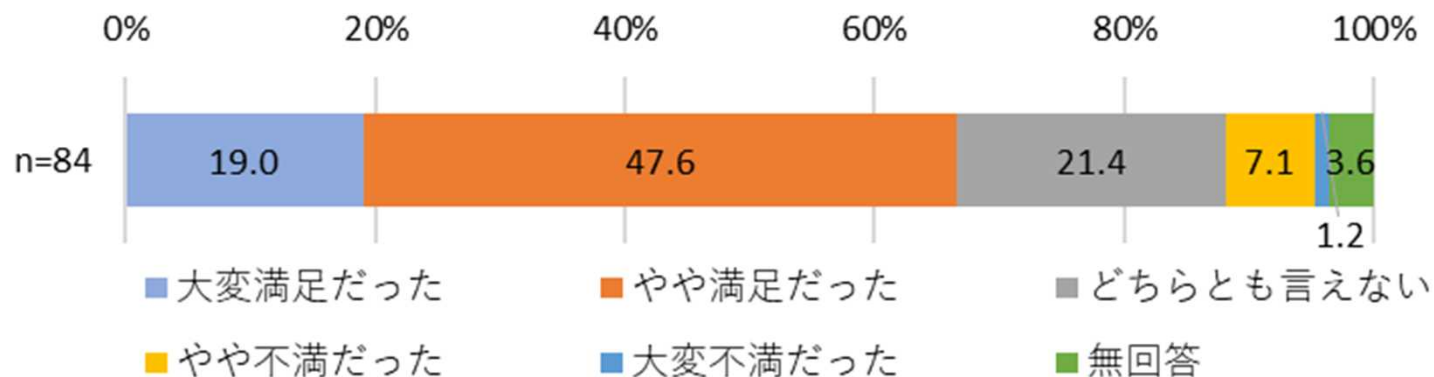


〈問3.参加したきっかけ〉

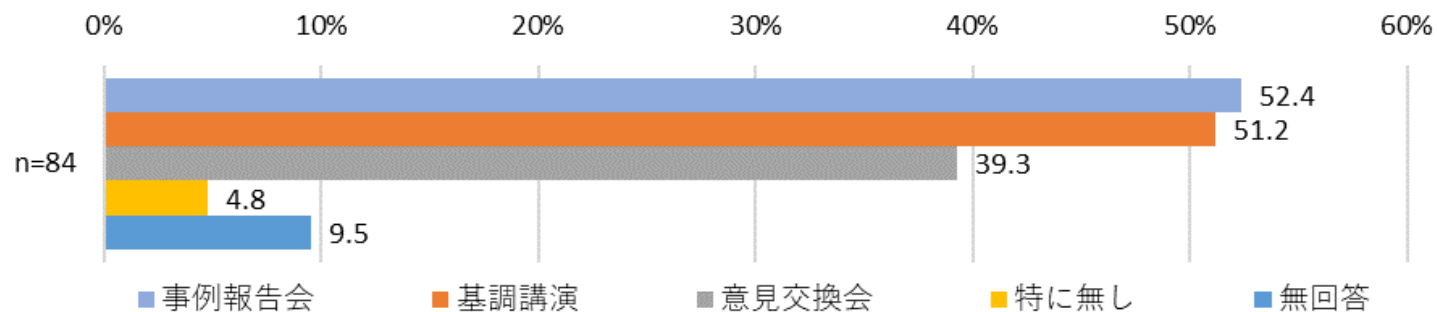


6. アンケート結果(3)

〈問4.満足度〉

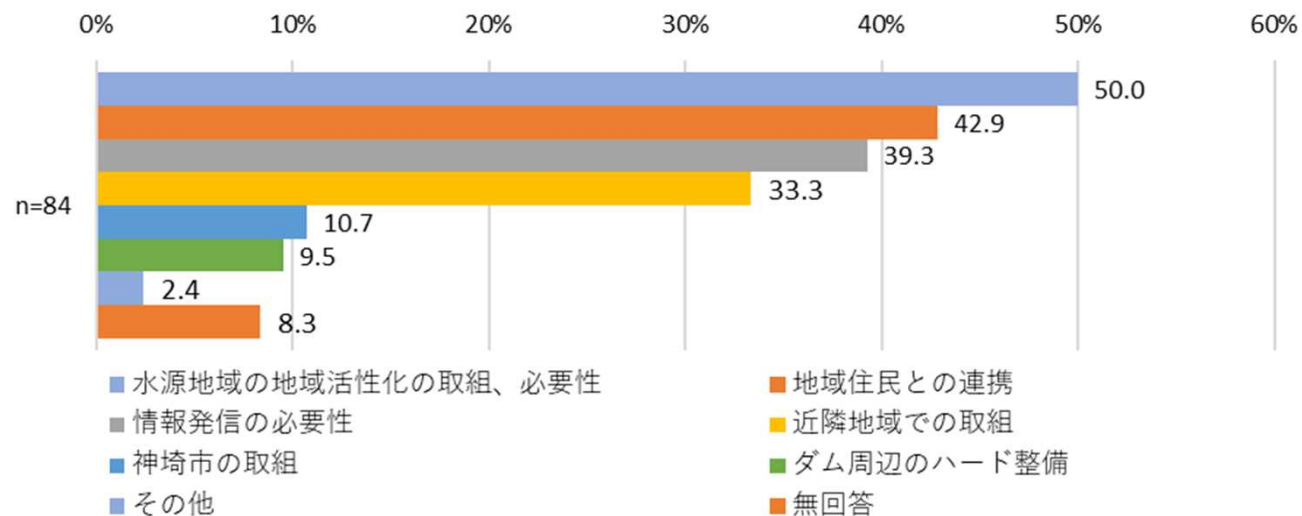


〈問5.プログラム〉

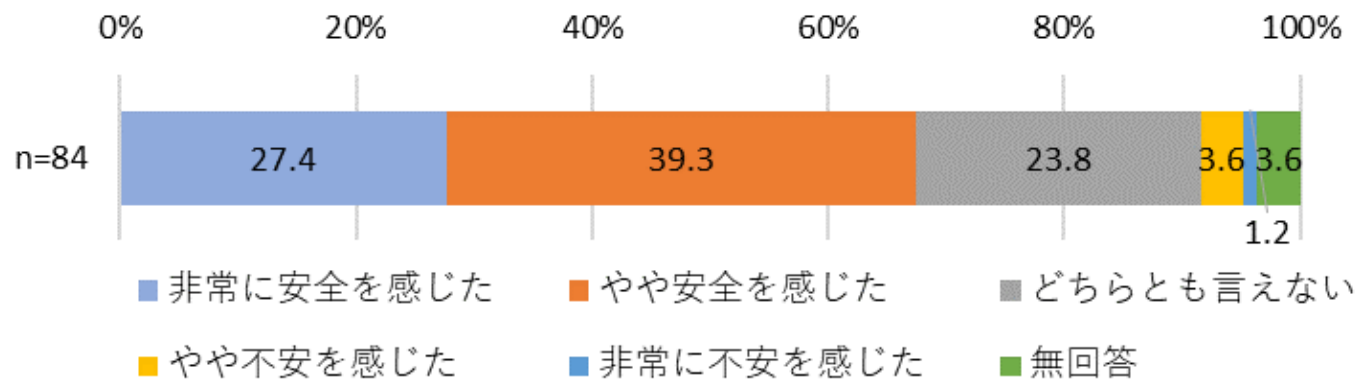


6. アンケート結果(4)

〈問6.理解〉



〈問7.感染症対策〉



6. アンケート結果(5) 自由意見

回答
城原川ダム の場所や規模など計画段階から周辺住民に教えてほしい。
穴ダムは必要でなく、作るなら貯水ダムがよい。
アンケートの時期が遅すぎる。ダム建設に対する意欲が低いと受け取れる。
倉今、一番ヶ瀬に親戚がおり、取り付け工事に関心がある。
現在計画されているダムが水をためない淡水調節ダムと聞いているが、観光振興からいっても水をためるダムにしないかお願いしたい。地域振興計画については今から計画なのか？
ダム建設による、町内の人口減が考えられますが、残った住民が地域活性化対策による建設前より住みやすい地域となるような対策を望む。早め早めの住民への説明が実施され地域振興については残る住民の意見を十分に聴いて計画をされるよう願います。
市はダム建設による地域振興等を検討されているようだが、この計画策定にあたっては策定委員会を設置して幅広く脊振町民の意見聴取をするべき。全国のダム計画では水没地域周辺の住民の意見を反映させるため委員会を設置し、計画策定にあたったケースが多くある。
城原川河川敷の花や緑が綺麗なので活かしてほしい。
ダム建設反対。
ダム建設反対、自然破壊なので反対。被害地区を移転するほうが地域振興になる。
人口対策が必要。そのために道路の整備や働く場所の確保を。
城原川ダム建設の情報が市のHPにはないのはどういうことなのか。調べる限り多目的ダム→治水ダムと時代に流されるような計画変更が見られる。目先のことにとらわれない長い目で見てほしい。
ダム周辺には高取山および八天山もある。自然散策道整備や紅葉の森、昆虫の森、山桜やシャクナゲ、ミツバツツジなどもともと自生していた花木などを復元し、四季の山菜レストランや体験施設として全国の子供達を迎える施設を整備いただきたい。
早急に取り掛かってもらいたい。